

タイトル (12p 明朝体)

副題 (10.5p 明朝体)

氏名 (10.5p 明朝体)

(所属) (10.5p 明朝体)

キーワード (10.5p ゴシック体) : 重要度順に三つまで記載してください。(10.5p 明朝体)

1. 小見出し (10.5p ゴシック体)

本文 (10p 明朝体)

2. 小見出し

本文

3. 小見出し

本文

① 発表要旨, 学会誌投稿原稿共にこのフォーマットになります。

1枚目は上から7行がタイトルなどの記入欄になります。

タイトルまで2行空白を設けてください。

副題がない場合はその行を空白にしてください。

副題が1行の場合は, 1行空白にして氏名としてください。

② 氏名が複数, 所属が異なる場合は以下のように記載してください。

○教育太郎¹・教育花子¹・教育次郎² (非会員)

(¹人間教育大学大学院○○研究科・²理化学研究所)

③ キーワードは, 重要度順に3つまで記載してください。

タイトル (12p) を除き, ①から③まで10.5p, フォント指定のない場合はMS明朝体で記載してください。

④ 本文は8行目から37行分, 2段になります。2枚目からは, 23字×44行×2段で作成してください。

⑤ 小見出し (10.5p ゴシック体) を除き, 本文は10p MS明朝体で記載してください。但し, 発表者が一部を他のフォント体で表現することを禁止しません。表やグラフを除き本文は10pで記載してください。

⑥ 図表などを縮小する場合は見やすい大きさにして下さい。

⑦ 要旨集の原稿は 2 ページ (学会誌投稿原稿ページ数は後日 HP でアップします) です。

⑧ 引用・参考文献の記載については, 以下の条件通りとしてください。

・本文で初めて文献を記載する時は「フルネーム (発刊年)」で記載し, 引用ページについては () 内に記載します。

例: (該当箇所下線)

梶田叡一 (2006) は, 目標分析が「目標の明確化」を「具体化, 現実化」し, 単元目標達成のために必要不可欠な「中核目標」を明確にするために, 『単元目標分析』⇒『単元目標構造図』⇒『指導順路案』⇒『単元指導計画』⇒『各授業時限の指導略案』の順に行うことを述べている (p.10)。

・2ページ以上にわたる場合は「(pp.10-12)」のように記載してください。

・文末に【引用・参考文献】欄を設けて文献著者名を五十音順に並べてください。外国の文献の場合は, 五十音をアルファベットに置き換えて記載してください。

・記載の仕方は, 雑誌の場合下記のとおりです。

フルネーム (発刊年)「論文名」雑誌発行者〔論文著者と同じ場合は略〕『雑誌名』雑誌発刊先〔出版社。出版社でなく不明の場合はなし〕

・また, 書籍の場合は下記のとおりです。

フルネーム (発刊年)『書籍名』出版社

・インターネット上のデータの場合は, URL と存在確認日 (西暦年月日確認) を記載してください。

具体例は以下に示します。

【引用・参考文献】 (10.5p ゴシック体)

東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田叡一編 (1988) 『現代教育評価事典』金子書房

石井英真 (2011) 『現代アメリカにおける学力形成論の展開』東信堂

梶田叡一・下館市立下館小学校 (1986) 『形成的評価と

授業改善／形成的評価による学力保障と成長保障』
明治図書

梶田叡一（2006）「授業力を磨く」人間教育研究協議会
編『教育フォーラム 37 号／授業力を磨く』金子書房
鳴門教育大学（2006）「授業実践力評価スタンダード（国
語科）」

[http://www.naruto-u.ac.jp/05_kyoumu/0555_gp/pdf/
standard/kokugo.pdf](http://www.naruto-u.ac.jp/05_kyoumu/0555_gp/pdf/standard/kokugo.pdf)（2016 年 8 月 15 日確認）

